

【最優秀賞】

団体名	日向商工会議所
活動の内容（概要）	本団体は、「日向の大人はみな子供たちの先生」を合い言葉にして、働く大人（よのなか先生）が子供たちに本気で「働く喜びと苦労」を語りかける授業を行うとともに、「よのなか先生」に対する研修会等を実施するなど、学校だけでなく、企業や行政、地域など巻き込み、産・学・官をあげてキャリア教育の推進に取り組んでいる。

受賞理由

- ・商工会議所が中心となり、街をあげて子供たちの未来づくりを進める雰囲気のある、地元の人の顔が見える取組である。「地域の子供たちは地域の大人が育てる」というコンセプトが明確であり、「よのなか先生」という事業が、子供からも大人からも支持されている。
- ・学生の県外流出を防ぐため、地元企業経営者をはじめとする地域社会で、地元へ愛着を持ってもらう活動を進めている。
- ・産業界・行政・学校が課題意識や方向性を共有し、コンセプトの具現化のためにキャリア教育支援センターが大きな役割を果たし、コーディネーターがつなぎ手となっている。
- ・研修会、交流会等を通じて、共に学ぶ土壌を築き、多彩な担い手のネットワーク化を図り、事業の一貫性、継続性を高めている。
- ・「日向の大人はみな子供たちの先生」のスローガンの下で、小中高等学校における「よのなか教室」を開催するととどまらず、当該「よのなか教室」実施前の学校との打合せの機会の確保、学校の教職員向けの「キャリア教育通信」の隔月発行などの工夫が見られる。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

日向市立小・中学校 23校、日向地区県立高等学校 4校、日向市教育委員会、宮崎県教育委員会

【行政や地域・社会、産業界等】

日向市役所（産業経済部、総合政策部）、日向市PTA協議会、社会福祉協議会、ロータリークラブ、放送大学、漁協、農協、森林組合、職業安定所、建設業協会、建築士会、老人会、区長会、民生委員社会人講師（よのなか先生）平成27年度延べ219人、中高生講師92名

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成25年～ 【継続年数】4年

日向商工会議所は、平成25年度に宮崎県教育委員会のキャリア教育のパイロット事業と、日向市教育委員会のキャリア教育推進事業の委託を受け、「まちぐるみ」でキャリア教育の推進に取り組む活動を開始した。

日向商工会議所内の一室にキャリア教育支援センターを開設し、3名のコーディネーターを配置して、学校と企業や地域を結びながら、「日向の子供たちの未来づくりプロジェクト」を推進して4年目を迎えている。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

日向市教育委員会と連携し、平成25年8月に、日向市キャリア教育推進懇話会を発足させ、年2回定期開催し、産業界（工業会、農林水産の各組合、建設業協会、商店会、医療福祉団体など）、行政、学校の代表が集い、産官学を挙げて、問題や課題の研究・協議を重ねている。その結果、①「将来どう生きるか」を考えさせる機会を増やしたい。②学ぶ意欲



<体験も交えながらの「よのなか教室」の様子>

を高め、「学力を向上」させたい。③日向を子供たちが「喜んで住み続けたい」と思う街にしたい。という3つの理念・方針で「日向の子供たちの未来づくり」に取り組んでいるところである。これまで懇話会は7回実施され、今後も継続していく予定である。

また、日向市教育委員会が主催する「キャリア教育担当者研修会」や「転入教職員研修会」、「日向市小中高連絡協議会」に参加・協力するとともに、「よのなか教室」に派遣する「よのなか先生」の登録の拡充に努め、「よのなか先生」の研修会、「よのなか先生」と教職員の交流会等の企画・運営を実施している。

さらに、学校の教職員向けに「キャリア教育通信」を2ヶ月に1回発行したり、ホームページやブログを活用して活動の様子をこまめに発信したりしており、教職員やその他の関係者との理念や方針の共有化を図っている。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

中心となる事業の「よのなか教室」の実施にあたっては、学校からの「よのなか先生」の派遣要請と、派遣側の講師・企業とのマッチングやコーディネートを、ある程度システム化している。具体的には、「よのなか教室」運営要領について、ホームページに掲載し、周知・徹底を図っている。また、データベース（登録者、実施実績など）のIT化を進めるなど充実を図っている。

さらに、「よのなか先生」登録者を拡大することを目標に登録依頼活動を幅広く展開している。現在、200人の「よのなか先生」に登録してもらっている。「よのなか先生」を対象とした研修会を、平成27年度は5回、これまで通算12回実施してきており、「よのなか先生」の質の向上を図る取組を行っている。この研修会への教職員の参加も増えてきており、「よのなか先生」と教職員の交流も深まってきた。

また、功績の大きい「よのなか先生」ならびに企業（講師派遣、キャリア教育全般に協力）を表彰し、その功に報いるとともに、広く市内外に周知してさらなる協力を得る手立てを講じている。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

中心となる事業として展開している「よのなか教室」の実施前には、必ず学校の担当者が「よのなか先生」の職場等に出向いて打合せを行うようにしている。その中で、先生方に新たな気づきや学び、アイデアが生まれ、その後の授業の工夫・充実につながっている。子供たちにとっては、普段先生から聞いていた話が、「よのなか先生」の話により、現実の生の社会でも同じであること（「挨拶は本当に大事である。」等）に気づき、社会への理解が一段と深まり成長するきっかけになっている。

「よのなか先生」を派遣する企業や団体にとってもメリットがある。例えば、若い社員、中堅社員が子供たちの前で話すことで、普段の仕事を一旦立ち止まって考える機会になり、自らの仕事観を見直す気づきになり、社員が成長する場になるという報告も受けている。

各学校で「よのなか教室」を実施した際には、ホームページに、企画の検討プロセス、成果だけでなく、工夫したこと、課題、子供の感想、活動の様子の写真などをできるだけ掲載するようにして、実績が他の学校に参考となり広がるように努力した。

※ H27年度 「よのなか教室」実施回数 96回 延べ参加児童生徒数 9020人

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

これまでに実施した「よのなか教室」の実績等をもとに、ねらいや概要、実施に向けた準備事項、実践例、効果等をまとめ、『よのなか教室』のすすめ」というDVDを作成し、県内の全ての小・中・高等学校、教育委員会、商工会議所、商工会、その他関係機関に配付した。(約500枚)それぞれの学校等では、研修等で活用してもらっている。

また、設置しているキャリア教育支援センターのコーディネーターを地域の様々な団体の会合に派遣し、「よのなか教室」の効果のアピールや「よのなか先生」への登録依頼を行っている。

さらに、商工会議所の主催で、日向市社会人5年未満研修会(民間企業、教職員、市行政の合同研修会)、日向市小規模事業者合同入社式、管理職研修会、教職員の日向市新赴任歓迎会等を企画・実施し、産業人材の育成という視点から「日向の人づくり」に地域ぐるみで取り組む環境作りに努めた。

学校現場の評価・感想・コメント

- ・若い「よのなか先生」が仕事について熱く語られる言葉や笑顔が印象的だった。「よのなか先生」の話は、教職員や地域の大人がまず聞くべきと感じた。未来の日向を築いていく人材育成に携わる我々の原動力になるからである。
- ・本校では、子供たちが「よのなか先生」にその道を決断した理由を問う。決断にはその人が大切にしている想いが根底にあるからである。「救いたい」「新しいものを創造したい」「役に立ちたい」などの多様な価値観の鍬を入れ、子供たちの未来への土壌を耕し、小さな芽が出てくることを期待している。

関係諸機関(行政・産業・地域団体等)からの評価・感想・コメントなど

- ・ふるさとを愛する心を育む学習を、どう結び付けるかがよのなか教室では大切。教員だけではできない。道徳教育の全体計画の中によのなか教室を位置付けたり、キャリア教育の全体計画の中に郷土愛を位置付けたりする必要があるのではないか。
- ・高校生が市内に就職しないが市内にも立派な企業が多い。市産業経済部としてはどうマッチングしていくか。高3のアンケートでは地元に残りたいが40%だったので、もっと前から手を打つということで、高2の進学希望者も含めて、15社の企業のプレゼンを聞く取組も行った。早い段階から日向市の素晴らしさを感じさせることが大切。課題はそのすばらしさの評価軸をどう設定するか。人口6万人の町の大人として、市職員が魅力を伝える訓練も必要である。行政の情報発信の一つとして「よのなか教室」をみてほしいのではないか。



<学級担任と「よのなか先生(新聞記者)」のチームティーチングによる国語の授業の様子>